

「高梁学園のボランティアと社会福祉」

【2006年10月 Seoul APPLE Workshop 講演からの抜粋】

テーマは「社会福祉とボランティア」ということでしたが、私はボランティアの専門家でも社会福祉の専門家でもありません。しかし、私どもの学園ではボランティアに関する様々な取り組みを行っておりまして、これがご縁でご招待を賜ったものと思っております。

私ども高梁学園がごじます高梁の地は、福祉とボランティアとは非常に縁が深く、留岡幸助（とめおか こうすけ）、石井十次、山室軍平（やまむろ ぐんぺい）、福西 志計子といった明治期の慈善事業の先駆者達は、この高梁の基督教会との関係があり、また、幕末に高梁が輩出した山田方谷、彼は十万両の借財のある備中松山藩を、わずか8年で建て直し、十万両の富を築いたことで日本ではその名を馳せておりますが、彼の「至誠惻怛」（しせいそくだつ）の精神、つまり、誠を持って人に仕え、慈しみの心を持って人に接し、私利を捨てて人を救うことこそが最善の生き方であるという精神を引き継ぎ、様々な慈善事業に取り組んでこられました。とりわけ、私ども高梁学園にとりまして、現在の順正短期大学が建っております場所は、福西志計子はそのボランティア精神から、教育を通じた女性の自立と社会開発への参加を促そうと、渾身の力を込めて、明治の初期に設立をした順正女学校があった場所でもあります。山田方谷に学んだ「知行合一」の精神、つまり心を鏡のごとく磨くことが重要であり、人はその磨ききった鏡の心をよりどころとして、行動しなさいということであり、また知っていながら行わないということは、まだ知らないに等しいという教えが、福西志計子の精神的支柱でありました。また同時にキリスト教に代表される近代思想を取り込みつつ、明治の新時代を切り開く人材の養成を目

的として誕生したのが順正女学校でした。ちなみに順正という命名は同志社大創立者の新島襄だと聞いております。とくにややもすると社会的弱者の側に置かれかねない女性の役割とその重要性に着目した、人間開発のあり方、すなわち（開発と女性）は、現代におきましても国際機関の中心課題として捉えられております。さらに、孤児救済活動のために尽力をつくした石井十次の妻である品子も順正女学校で学び、また石井十次自身は岡山の地におきまして、日本で初めて孤児のための岡山孤児院を設立し、当時は1200人を超える孤児を養っておりました。十次は「孤児の為命を捨てて働かん、永久の床につくまで」と一生を孤児の救済のために尽くしました。晩年におきましては十次はルソーの「エミール」に感銘を受け、自分の故郷であります宮崎県日向市の茶臼原にも、孤児のための理想郷の建設を行いました。十次の精神は、今も日向の地で「石井記念友愛社」によりまして、しっかりと引き継がれておりますが、この日向市のすぐ近くにございますのが、私どもの九州保健福祉大学でございます。そして社会福祉学部の学生達が現在でも石井十次の残した友愛社で実習をさせていただいております。また、石井十次が生涯をかけての友であった大原孫三郎が、その一生の大半を過ごした地、倉敷に倉敷芸術科学大学があり、高梁は石井十次の娘婿であった児嶋虎次郎の出生地であり、妻品子が学んだ順正女学校の跡地に順正短期大学・吉備国際大学があり、宮崎県延岡市に九州保健福祉大学を設立したという不思議なご縁を戴いているのではないかと感じております。本学園におきましてこのような背景の下、改めまして石井十次の教えを見つめ直し、十次の精神を学園の教育の礎のひとつにしたいということで、石井十次に関するシンポジウムを岡山で開催し、引き続きまして、リレーシンポという形で宮崎で開催しました。

さて、日本におきましては、社会福祉は、このような精神のもとに、公的社

会福祉を支える民間社会福祉の活動によって発展してまいりましたが、民間の社会福祉の中心はボランティア活動でございます。我が国におきましては、1970年以降は、ボランティア活動が特に障害者のサポートの面で熱心に行われるようになりました。また民間福祉機関であります社会福祉協議会がボランティア活動に着手したことも発展の大きな要素となり、日本の各地にボランティアスクールや、ボランティア講座が開かれるようになりました。しかし、なんといた言いましても平成7年に発生しました阪神・淡路大震災の被災者支援におきまして、日本全国から多くのボランティアが駆けつけ、このボランティア活動が行われて依頼、ボランティアの重要性とその必要性が本格的に認識され始めました。私どもの学園からも多くの学生ボランティアが参加し、様々な救援活動に取り組みました。しかし、この経験により、私は単なるボランティアによる活動では大きな貢献が出来ないということを実感いたしました。つまり、医者や看護師等、高度な専門知識を有するもの、あるいはボランティアをコーディネートできるもの等、それぞれの役割の果たせる人材が、このような緊急救援活動では必要性が高いことを認識いたしました。

また、一方で、ボランティアは無償でなければならないとよく言われております。しかし、本当にボランティア活動は無償でなければならないのでしょうか。私は、ボランティア活動は無償であるという考え方が、有償であればボランティアができるという貴重な資源を排除する事になると思います。生活が維持できなければ、本腰を入れてボランティア活動は行うことができません。したがって、有償ボランティア活動と無償ボランティア活動は等価値であります。しかし、日本ではまだこの考え方が浸透しているとはいえないと思います。この考え方をしっかりと社会の中に位置づけることによって、ボランティア活動がさらに活性化され、社会全体の水準が向上する事になります。

そこで、まさにボランティア精神の息づく地でございます私どもの学園におきましても、このような人材の育成を行うことが、ひとつの使命であると考えまして、吉備国際大学の社会福祉学部には福祉ボランティアコースを設置するに至りました。我が国におきましては、現時でもこのような体系的なボランティア教育を行っている大学はなく、極めて先駆的な取組みであると考えております。この学科の卒業生は、社会福祉士という社会福祉に関する理論・実践基盤に立ち、かつボランティア精神を有し、ボランティアをコーディネートできる力を備えて、日本各地で活躍をしております。さらに本学では国内に留まらず、海外においても NGO などで国際協力活動を行える人材の育成も併せて行っております。専門的な教育を身に付け、3年次には実際に海外で実習を行うプログラムを提供しております。タイやインドにおきまして、地域の保健所やストリートチルドレンの小学校への就学支援活動を行っている現地の NGO におきまして 2 週間ほどではございますが、現地で実習をすることにより、学生はより実践的な教育を受けております。

また、吉備国際大学には文化財学部には文化財修復国際協力学科という極めてユニークな学科を持っております。この学科におきましては、古文書の修復技術、日本画ならびに西洋絵画の修復技術、素材の科学的な分析技術、デジタルアーカイブの技術を習得できる教育を行っており、これも日本には本学しかございません。絵画の修復には勿論修復家、歴史家、そして科学者がすべて合意をした上で、実際の修復を実施いたしますが、この知識をすべて兼ね備えた人材の育成に取り組んでおります。さらに、ベトナムやインドネシア等の国々では、このような修復家が極めて不足しており、このような分野における国際協力の一翼を担える人材を、ぜひとも本学において育成したいと考え、この学科を設置するに至りました。学科に非破壊分析等の分野で大変ユニークな先生方

がおられるおかげで2006年10月13日にもアメリカのボストンミュージアムと協定を締結し、共同研究や院生のインターンシップ等を行っております。ベルギーのゲントロイヤルアカデミーやドイツの修復工房、中国や台湾の故宮におきまして、やはり2週間程度の現地実習を行っております。

このように本学園あげてボランティア活動に取り組んで参りまして、2001年9月には高梁学園ボランティアセンターを設立するに至りました。組織と致しましては、このセンターの下に吉備国際大学ボランティアセンター、九州保健福祉大学ボランティアセンター等、本学園の各設置校にセンターを置きまして、災害復興支援、地域貢献、国際貢献、障害学生支援の4本を柱として、事業に取り組んでおります。最近では四川被災者救援のための救援金募金活動、環境保全の一環としての「森林ボランティア活動」、ミャンマー救援物資ボランティアなどがございます。

さて、本学園が、以上のようにこれまでボランティア活動とともに、国際協力の一翼を担える人材の育成にも取り組んで参ったわけですが、世界のグローバル化がますます進展する中で、貧富の格差、民族紛争、宗教対立、テロの脅威、環境破壊、感染症の蔓延等多くの問題が複雑に絡み合い、今日の国際社会は新たな様相を呈しています。このような状況の中で、私どもの学園ではそれぞれ、高度な専門的知識を習得できるプログラムを提供して参りまして、このような優れた実践的知識は国際協力の様々な分野におきましてまさに活かすことが出来るものであるという考えを持つようになりました。そこで、私は本学園の基本的なコンセプトの一つとして、国際協力を位置づけ、さらにそれを実践するために2006年吉備国際大学に大学院国際協力研究科を開設いたしました。この研究科はすべての専門分野を基礎として設置するという極めて異例な形での研究科の開設という点におきまして、文部科学省等の交渉に

はずいぶんと苦勞をいたしました。私どもの強い要請により、ようやく認可をいただくことができました。広く門戸を開放し、種々の専門分野の学生を集める為、通信教育による大学院として発足いたしております。この研究科は岡山を拠点に世界に活躍をされております AMDA という NGO と全面的に提携をし、学生はこの NGO の持つフィールドで実習を行う予定になっております。AMDA は 2006 年には、国連経済社会理事会（UNECOSOC）より「総合協議資格」を取得されました。さらに岡山県おきましては、「国際貢献先進県おきやま」として日本で初めて岡山国際貢献活動の推進に関する条例を制定されて、岡山から世界へと積極的に国際協力を推進しており、国際救援活動を支援する為の「救援物資備蓄センター」を設営するなど、産官学が一体となった国際貢献に取り組んでいく施策を掲げております。これによりまして岡山発国際貢献推進協議会が、産官学のうち学は本学園が正式のメンバーとなり、発足をいたしました。また、開学以来すべての設置校におきまして、国際交流をひとつの重要な柱として積極的に取り組んでおります。これは、学生時代の国際交流によりまして、世界各地に芽生えた友情は生涯に渡り消えることがなく、その輪は永久（とわ）に広がっていき、ひいては世界平和をもたらすという、創始者である加計勉の強い信念に基づくものであり、現在では、14 カ国、50 校と姉妹校提携を行い、活発な国際交流を展開いたしております。

私ども高梁学園はこのように、ボランティア精神を有した専門家を育てて参りました。社会福祉士や、看護師、理学療法士などそれぞれの高度な知識を教授するとともに日々の実務に取り組むということが重要であり、私どもは今後もよりグローバルな慈しみの心を持った学生達を育成していくことが高梁学園の使命であると考えております。